

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

一 現代文(50点)

問一 6点

(模範解答例) A ○4点

犠牲になる他のモノやコトと比べ、

B ○2点

そのモノやコト自体の方により高い

価値があるとき。(40字)

各加点要素の加点の条件

【Aに得点が無いとき、Bは得点できない】

A 「犠牲になる他のモノやコトと比べ、」(4点)

※二つ目の条件

○ 「犠牲になる他のモノやコト」は、「犠牲と(に)なるモノ(もの)・「犠牲と(に)なるコト(こと)」でも、「機会費用」でも可。

○ 「他の」は、なくても可。

△ 「犠牲」だけで、「となるもの」等がない場合は2点(△2点)。

× 「犠牲」の意がないものは原則×。0点

例 「他のモノやコトと比べ、」 価値があるとき。「は0点。

△ 「犠牲になるモノ(コト)」「との比較を言っていないが、「機会費用が少ないとき・機会費用が少ない点で価値があるとき」を言っている場合は2点(△2点)。

○ 「限りある資源の中で・資源に限りがあるという制約下で」等の説明はなくても可。

B 「そのモノやコト自体の方により高い価値があるとき」

※二つ目の条件

× Aが0点の場合は不可。

※ 「そのモノやコト自体の方に」は、「そのモノ(もの)に」・「そのコト(こと)に」・「それ自体に」・「行おうとすることに」でも可。

「より高い」は、なくても可。

○ 「価値がある」は「価値が高い」でもよい。

× 「価値」に相当する意がない場合は0点。

問一 解答1 利害が一致する面 5点

(模範解答例)

A ○1点

人々の協働によって

B ○3点

有効に生産活動ができるという

C ○1点

利害が一致する面。

各加点要素の加点の条件

【Cに得点が無ければ、A・Bは加点しない】またAに加点がなければBは加点しない

A 「人びとの協働によって」(1点)

※一つ目の条件

※「協働」に相当する表現がない場合は不可。「人々の・活動」はなくても可。

B 「有効に生産活動ができるという」(3点)

※二つ目の条件

※Aが0点の場合は不可。

※「生産」該当する表現が無い場合は不可。「協働により生産が成立する」の意があること。

○単に「生産」という語があるだけでは不可。「生産」に対して「有効・効率的」の意があること。

※「できるという」は「でき」、「等でもよく」、「できるため」のように原因・理由をいうものでも可。

また、AとCが逆で、「利害が一致するので、人々は協働によって生産活動する」という説明でも可。

C 「利害が一致する面」(1点)

※社会経済システムのプラス面

問一 解答2 利害が対立する面 5点

(模範解答例)

A ○1点

量に限りがある

B ○2点

モノやサービスの

C ○2点

分配を巡って、利害が対立する面。

各加点要素の加点の条件

【Cに得点が無ければ、A・Bは加点しない。また、Bに加点が無ければAは加点しない。】

A 「量に限りがある」 (1点)

※一つ目の条件

※Bが0点の場合は不可。

※Bの「モノやサービス」に限界があると言う表現であること。

B 「モノやサービスの」 (2点)

※二つ目の条件

※Cが0点の場合は不可。

△「モノ」か「サービス」の片方しかない場合は1点(△1点)。

○「モノ」は平仮名でも可。また、「モノ」は「生産物」でも可。

※「モノ」は「資源」では不可。

C 「分配を巡って、利害が対立する面」 (2点)

※社会経済システムのマイナス面

※「分配」の意がなく、「与える・与えられない／受け取る・受け取れない」の意がある場合は1点(△1点)。

※「分配・与える・受け取る」のいずれかに相当する表現がない場合は不可。

△「分配」の意がある場合で、「利害が対立する」という表現がなく、「利害」という語がなく、単に「対立する」・「問題が起きる」等の表現になっている場合は1点(△1点)。

※「分配」の意がない場合で、「利害が対立する」という表現がなく、「対立する」・「問題が起きる」等の表現になっている場合は不可。

※「利害が対立するので、分配ができない」・「利害対立によって、衡平に分配できる」等は不可。

※「協働しても」の意の説明はなくても可。

問三 4点

ハ

問四 a 3点

公平

問四 b 3点

効率

問四 c 3点

問五 12点

(模範解答例) A ○2点 ※A後半と併せて2点

経済システムは、

B ○5点

各個人が

C ○1点

どれだけ労働を供給し、

D ○1点

どれだけ生産物を得て、

E ○1点

どのような消費

F ○1点

と貯蓄を実現したかという、

G ○1点

人間に直接関わるデータによって

(A後半)

判断されるべきであるという点。

各加点要素の加点の条件

【A・B・C・D・E・F・Gに関して部分採点を行う。ただし、AはBとFに得点がなければ得点できない。】

※「人間中心の見方」については、P7の1～3行目に書かれている。ここをまとめればよい。

A 「経済システムは」によって判断されるべきであるということ (2点)

※BとFがいずれも0点の場合は不可。

○ 「判断される」は「評価される」でも○。

△ 「資源配分は」 すべきだ (判断すべきだ・改善すべきだ) 「は」は△1点。

B 「各個人が」 (5点)

○ 「各個人が」が、CとFの、少なくとも一つの内容にかかっているれば○。

「個人のデータによるべきだ・個人に焦点を絞るべきだ」の意になっていれば○。

C 「どれだけ労働を供給し」 (1点)

※ 「労働に関するデータによるべきだ・労働に焦点を絞るべきだ」の意があること。

D 「どれだけの生産物を得て、」 (1点)

※ 「生産に関するデータによるべきだ・生産に焦点を絞るべきだ」の意があること。

E 「どのような消費」

※「個人のデータによるべきだ・個人に焦点を絞るべきだ」の意があること。

F「と貯蓄を実現したかという」(1点)、

※「蓄積に関するデータによるべきだ・蓄積に焦点を絞るべきだ」の意があること。

G「人間に直接か関わるデータによって」(1点)

※「人間に関わることに関するデータによるべきだ・人間に関わることに焦点を絞るべきだ」の意があること。

○「社会福祉の観点から見るべきだ」でも可。

問六 X 3点

ホ

問六 Y 3点

ロ

問六 Z 3点

イ

〔二〕 現代文（50点）

問一 各2点×4＝計8点

- 1 枯渴（涸渴）                      2 うよ                      3 しれつ                      4 閉塞感

問二 8点

A ○2点

（模範解答例）

二位以下の候補者にも加点できることよって、

B ○2点

上位の点差は大きくなる一方で、下位の点差は小さくなり、

C ○4点

有権者の意思が反映されやすい点。（六五字）

各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う】

A 「二位以下の候補者にも加点できる」(2点)

※「多数決と比較したダウダールルールの利点」に関する説明1

※本文の「多数決だと2位以下へ一切の加点ができないが、ダウダールルルだとそれができる」を踏まえて、

「二位以下の候補者にも加点できる」ことが説明できていれば、Aに関して満点(2点)とする。

B 「上位の点差は大きくなる一方で、下位の点差は小さくなり」(2点)

※「多数決と比較したダウダールルールの利点」に関する説明2

※本文の「(有権者が順位を決めやすいであろう)上位では点差が大きつく一方で、(五十歩百歩で決めに

くい)下位では点差が小さくなる」を踏まえて、「上位の点差が大きくなる一方で、下位の点差は小さくな

る」ことが説明できていれば、Bに関して満点(2点)とする。

C 「有権者の意思が反映されやすい」(4点)

※「多数決と比較したダウダールルールの利点」に関する説明3

※本文の「(多数決は)人々の意見が適切に集約できない」や「(多数決という)自分たちの意思を細かく表

明できない・適切に反映してくれない」を踏まえ、それを裏返した形で、「有権者の意見が適切に集約され

る、適切に反映される」ことが説明できていれば、Cに関して満点(4点)とする。

○「有権者」は「国民」でもよい。

問三 各2点×5＝計10点

I Ⅱホ      II Ⅱト      III Ⅱハ      IV Ⅱロ      V Ⅱチ

問四 10点

A ○3点 ※A後半と併せて3点

(模範解答例) ネーダーの政策はブツシユよりゴアに近かったため、

B ○3点

(A後半)

事前の世論調査で有利だったゴア の支持層を一部奪うことで、

C ○4点

票が割れてブツシユが漁夫の利を得て大統領選挙に当選した。 (80字)

各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う】

A 「ネーダーの政策はブツシユよりゴアに近かったため、ゴアの支持層を一部奪う」 (3点)

※本文の「ネーダーの政策はブツシユよりゴアに近く、選挙でネーダーはゴアの支持層を一部奪うことになる」を踏まえた内容が説明できていれば、Aに関して満点(3点)とする。

B 「事前の世論調査で有利だったゴア」 (3点)

※本文の「事前の世論調査ではゴアが有利、そのまま行けばおそらくゴアが勝ったはずだ」を踏まえて、「事前の世論調査でゴアが有利だった」ことが説明できていれば、Bに関して満点(3点)とする。

C 「票が割れてブツシユが漁夫の利を得て大統領選挙に当選した」 (4点)

※本文の「票が割れてブツシユが漁夫の利を得た」や「ゴアは負け、ブツシユが勝つことになった」を踏まえた内容が説明出来て入れば、Cに関して満点(4点)とする。

○ 「票が割れてブツシユが漁夫の利を得た」 (2点) + 「ブツシユが大統領選挙に当選した」 (2点) Ⅱ4点

△ 「票が割れてブツシユが漁夫の利を得た」、 「ブツシユが大統領選挙に当選した」のどちらか一方の場合、

△2点



A ○3点 ※A後半とあわせて3点

(模範解答例) 多数の人々の意思を、

B ○3点

できるだけ細かく適切に反映させて、

(A後半)

「つにまとめる仕組み。」 (三七字)

各加点要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う】

A 「多数の人々の意思を、一つにまとめる仕組み」(3点)

※ 「性能のよい集約ルール」の説明<sup>1</sup>

※ 本文の「多数の人々の意思をひとつに集約する仕組み」を踏まえた内容が説明できていれば、Aに関して満点(3点)とする。

× 本文全体を通して、「多数の人々」という表現がなく、「有権者」という表現だけになっているものは、Aに関する加点を行わない。「有識者の多く」という表現であれば○

B 「できるだけ細かく適切に反映させて」(3点)

※ 「性能のよい集約ルール」の説明<sup>2</sup>

※ 本文の「(多数決という)自分たちの意思を細かく表明できない・適切に反映してくれない」を踏まえ、それを裏返した形で、「多数の人々の意思を細かく表明できる・適切に反映させる」ことが説明できていれば、Bに関して満点(3点)とする。

△ (多数の人々の意思を)「細かく表明できる」・「適切に反映させる」のどちらか一方の場合△2点。

◆文末表現に関して

○文末は「仕組み」が最もよいが、「もの」でも構わない。

▲文末に「ルール」をそのまま用いているものは、A・Bの合計点から▲1点減点する。

問六 各4点×2＝計8点

ロ・ニ (順不同)

三 古文(50点)

問一 各1点×4＝計4点

- ① くぎよう ② ざんげ ③ みす ④ こち

問二 各2点×5＝計10点

- Ⓐ＝□ Ⓑ＝ハ Ⓒ＝ト Ⓓ＝ニ Ⓔ＝ハ

問三 各5点×2＝計10点

【A】5点

A○1点

(模範解答例) この小侍従なら

B○2点

何か優美な話が

C○2点

ありそうだ。

各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点】

A 「この小侍従なら」(1点)

○ 「小侍従には」も可。

× 傍線部の「ここ」は人物を指している。また、設問が必要な言葉を補って答える設問であるため、『小侍従』というように、具体的にないもの(「この人」「この女」など)は加点しない×。

B 「(何か)優美な話」

※ 傍線部「優なる事」の訳の部分。

○ 「優美な話」「優雅な話題」など。「色っぽい話」「艶っぽい話」などでも可。

△ 「すぐれた話」「趣がある話」などはこの場面の訳としてはズレているので、△1点とする。

C ありそ

※ 「むず(推量の助動詞)」の訳。

○ 「(話)があるだろう」「(話)があるのでしよう」も可○。

× 「話をするだろう」は×。小侍従が「優美な話題を」持っているだろうと、言っている。直後で小侍従も、この部分を受けて、「多く候ふよ(たくさんございますよ)」と言っている。

【C】5点

A〇3点

(模範解答例)

体裁が悪いくらいに

(B前半)

急いで

C〇1点

迎える車に

B〇1点

乗ってしまった。

各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点】

A 「体裁が悪いくらいに」(3点)

※ 「人わろきほどに」の訳

○ 「みっともないくらいに」「体裁が悪いほどに」など。

B 「急いで乗ってしまった」(1点)

※ 「急ぎ乗られぬ」の訳

※ 「れ」は自発。「ぬ」は完了なので、それを踏まえた訳になっていること。

○ 自発+完了の、「(思わず)乗ってしまった」のニュアンスであればよい。

※ 自発の「れ」は「自然と」のように、(書くどむしろ不自然なので)言葉にしていなくても構わない。(もちろん、あっても構わない)また、「乗られずにはいられなかった」のようなものも可○。自分がした動作であるように書かれていればよい。

× 「自発の「れ」を、「急いで乗られてしまった」のように、受身や尊敬のように訳されているのは×。乗ったのは自分。

× 「急いで乗った」などは、自発+完了の訳のないので×。加点しない。

▲牛車に乗ったのは小侍だが、もし、小侍以外の主語を補っていた場合、▲1点減点とする。「私は」は構わない。

C 「迎える車に」(1点)

※何に「急ぎ乗られぬ」なのか、具体的に乗ったものを補った部分。

○小侍を迎えにきた「車」であることがわかればよい○。

○「車に」や「牛車に」でも○。

問四 4点

候ひしか

※解答例のみ。漢字ミスは▲1点減点で3点。

問五 各2点×4＝計8点

1 へ 2 ニ 3 イ 4 ロ

問六 3点

後白河院（法皇）

※解答のみ

×「後白河法皇」は×。文中にない。

問七 4点

ハ

問八 5点

ハ

問九 各1点×2＝計2点

イ・へ

【四】(漢文) 採点基準(合計≒50点)

問一 各2点×4≒8点

a ≒まさに      b ≒かつて      c ≒にわかに      d ≒ついに

△現代仮名遣い・送り仮名を含めることを指定。歴史的仮名遣いは△1点。

問二 3点

軍隊・軍

※「兵」「兵隊」は不可。

○別解として、「師団」は可とする。

問三 6点

(A前半)

(模範解答例) どうして

B○1点

C○2点

手薄な兵力で、敵地深く攻め入ることが

A○3点

できようか。いやできるわけがない。

各加点要素の加点の条件

A 「どうして〜できようか。いやできるわけがない」(3点)

※「豈可〜耶」の訳

※反語で訳していないものは0点。

○「〜できない」「〜できるわけがない」のように、反語の意味する内容(不可能で訳しているもの)はもちろん○。

B 「手薄な兵力で」(1点)

※「軽兵」の訳

※「軽兵」には「手薄な兵力」と、注がついているので、基本的にこれが解答だが、注を使っていなくても同内容なら可○。「手薄な」の意がないものは×0点。

C 「敵地深く攻め入ることが」(2点)

※「深入」の訳

△「敵地」の内容がないもの▲減点1点。また、「攻め」の内容がないもの▲減点1点で、それぞれ△1点。  
↓「深く入ることが」は▲減点1点×2で、Cは0点

問四 各4点×2＝8点

(解答) 甲＝ハ 乙＝ロ

問五 5点

(模範解答例) くれおよばざるゆえんなり(と)

各加点要素の加点の条件

※現代仮名遣い・ひらがなであること。

▲「所以」を「ゆゑん」としたものの減点1点。

×漢字交じりにしたものの0点。

×「此」を「これが」「これは」「かく」「かくの」「この」など0点。

×「也」を「や」「か」としたものの0点。

問六 8点

A○3点

B○2点

(模範解答例) 韓琦も悲しみと憤りに耐えきれず、涙があふれて、馬を止めて、

C○3点

数時間も一歩も前へ進むことができなかった。

各加点要素の加点の条件

A「韓琦も悲しみと憤りに耐えきれず」(3点) ※難関の問五で似た設問があるが、配点違うので注意。

※「魏公、不勝悲憤(魏公、悲憤に勝へず)」の訳

×不可能の訳でなければAは加点しない。「韓琦は悲しみと憤りで」などは×。加点しない。

△「韓琦」のヌケは▲1点減点。「韓琦」は「魏公」「韓公」でも可。

○「悲憤」は「悲しみ、憤ること」だが、「悲しみ」「憤り」の一方しかなくても可、○とする。

○「耐え」は「堪え」でも構わない。ただし、誤字は▲1点減点。ひらがなは可。

B「涙があふれて馬を止めて」(2点)

※「掩泣駐馬」(泣(なみだ)を掩(おお)ひ、馬を駐(とど)めて)の訳の部分

○「涙があふれて」「馬を止めて」の両方がそろって2点。どちらか1つの場合は△1点。

※「涙があふれ」たのも「馬を止め」たのも韓琦。他になっていたら、この語句があっても×加点しない。

C「数時間も一歩も前へ進むことができなかった」(3点)

※「不能前者数刻(前(すす)む能(あた)はざること数刻)」の訳の部分。

×不可能の訳でなければCは加点しない。「数時間も一歩も前に進まなかった」などは×。加点しない。も  
ちろん、「〜進めなかった。」は○。

- 「進むことができなかつた」は、「動くことができなかつた」なども可。○。  
 ○「一歩も」「前へ」は不問。無くても可。  
 △「数時間も」のヌケは▲1点減点で△2点。「数刻も」とそのまま▲1点減点。  
 ※「数時間も」は「長い間」などでも○。「しばらくの間」も可とする。○。「ちよつとの間」など、明らかに短い時間を表す言葉は不可。▲2点減点。

問七 5 + 7 = 12 点

(i) 5 点

(解答) 難<sub>レ</sub> 置<sub>二</sub> 勝 敗 於 度 外<sub>一</sub> 也。

※完答のみ。これ以外不可。

(ii) 7 点

(解答) □